

特別号 その4

欧州ブラウンフィールド会議 2006

～重度な複合汚染サイトの再開発事例～

お疲れ様です。環境メルマの佐藤です。先週はWIT ブラウンフィールド会議 2006の様子を現地からお届けいたしました。今週は、その会議の中で特に注目を集めたプレゼンテーションについてお伝えいたします。

会議最終日。出席者たちとも顔なじみになり、会議室の雰囲気はかなり和やかになっていました。そんな中で大変興味深いプレゼンテーションが始まりました。発表タイトルは「重度な複合汚染サイトの再開発の模範—マサチューセッツ州ウーバーンにおける工業団地跡地」。ウーバーンは「シビルアクション」という米国の公害民事訴訟のドキュメンタリーの舞台となったところ。この著書は1998年にハリウッドで映画化され、その後日本でも公開されているのでご存知の方もいらっしゃると思います（ちなみに主演はジョントラボルタです）。

発表してくださった方は、汚染サイトの浄化と再開発に特化したコンサル会社(GETG : Greenfield Environmental Trust Group, Inc.)の社長であるブルックス女史です。臨場感満ち溢れる彼女のお話ぶりに会場の皆がグッとひきつけられている感じが広がっていました。それもそのはず、この方がスーパーファンドサイト、ウーバーンで見事に再開発を成功させたコアの人物なのです。どうしようもない程に汚染された土地が、現在ではホテルや小売店舗、オフィスビルが立ち並ぶ商業地区として生まれかわっています。2000年にはこの再開発事例にフェニックス アワードが送られ、米国を代表する再開発モデルとなっています（フェニックス アワードについてはTopic29を参照）。詳細については下のURLを参照下さい。

http://www.phoenixawards.org/Presentations/present_00/win_00.1.htm

さて、このスーパーファンドサイトが再開発されるまでに大役を果たしたのは「Custodial Trust（法的保護信託）」という第三者機関だったそうです。ブルックス女史を含むこの組織が実施したのは、小説やメディアによってひろく知れ渡った、ウーバーンに対する悪い印象を解消すべく、コミュニティーとの協力を図ったこと。そこではリスクコミュニケーションが重要な役割を果たしました。1時間のお話でしたが、彼女の印象はまさしく「リスクコミュニケーター」そのものだとおもいました。

彼女の話でお伝えしたいことがもうひとつ。このメルマでおなじみとなった「Institutional Controls」。ウーバーンではInstitutional Controlsは永久に必要だろうとのことでした。本

家の米国でもさらに良い仕組みを構築していかなければならない分野であり、ブラウンフィールド再開発にとって重要なファクターである、と話しておられました。

また発表の最後にはこんな発言もありました。「この再開発を成功させるうえで一番大切だったのはPassion（情熱）です。それ無しにはあの重度の汚染サイトを再開発することなどできなかったでしょう。Passionがあれば結果は自ずとついてきます。」綺麗事のように聞こえるかもしれませんが、実際に10年以上もの間、膨大なリスクを背負ってたち、ウーバーンにもう一度命を吹き込むという大仕事を成し遂げた彼女を目の前にすると、本当にそうなのだろうなと思わざるを得ませんでした。

来週は通常通り VCP についてお送りいたします。ターゲットはネバダ州です。

Thanks God It' s Friday!

Thanks God It' s Brownfield!!

環境メルマ 佐藤 (t.sato@ers-co.jp)

坂野のつけたし (banno@ers-co.jp)

スーパーファンドサイトは、汚染がとてつもない場所です。ブラウンフィールドサイトには、それほど汚染はありません。前者は、環境上対策を行なう必要がある土地であり、後者は、環境汚染による責任問題が再開発行為の障害になっている土地です。

ウーバーンの「過去」は、上にあるようにジョナサン・ハーの「シビルアクション」という小説に記されています。一人の弁護士が、企業が引き起こした環境問題を足場にして、有名（or 金持ち）になってやろうと考えます。ところが、裁判は彼の思うように進みません。汚染原因の追及、住民健康障害との因果関係の証明、法的な議論だけでなく、様々な専門家を巻き込んで話が展開します。結末はスカッとしませんが、現実（？）とはこういうものだといういい勉強材料にはなります。（DVD をみるより、小説（新潮文庫）で読むことをお勧めします。）

昨年秋に現地で撮影した写真を2枚ほど載せます。1枚目は汚染廃棄物を集めて埋め立てた処分場の現状です。芝生となっていますが、雨水が入らないような構造になっており、おそらく永久にこのような状態であり続けることとなります。地下水の浄化作業や水質モニタリングも行なわれています。2枚目は開発された場所です。手前の駐車場に停まっている車は、このサイトに建設された駅から発車する通勤電車に乗り換える人たちの車です。パークアンドライドといいます。奥にある建物は、レイセオンというFORTUNE 100に入る企業、そのほかマリオット系のホテル、ターゲットという大規模店舗もこの土地にやってきました。

